

茂吉と西行の蔵王へ

山形市観光協会常務理事

堀江 朝好氏



「朝ぐものあかあかとしてたなびける蔵王の山は見とも飽かめや」。初秋の小雨煙る蔵王温泉バスターミナルに、斎藤茂吉の歌碑が建立されました。当日は吉村美栄子県知事、佐藤孝弘山形市長、秋葉四郎斎藤茂吉記念館館長が臨席し除幕式を行い、文化の薫る「蔵王文学のみちプロジェクト」がスタートしました。

歌碑は茂吉を敬愛する人たちによって北海道から九州まで全国各地に建立されています。蔵王は茂吉が幼少のころから朝夕仰ぎ親しんだ父なる山で、これまでも蔵王を詠んだ歌碑が、熊野岳山頂、観松平、鳴の谷地沼、上の台、中央高原（蔵王大権現蔵王温泉礼拝所）、温泉施設・離れ湯百八歩に建立されています。熊野岳山頂の歌碑「陸奥をふたわけざまに聳（そび）えたまふ蔵王の山の雲の中に立つ」（歌集『白桃』）は、それまで建てることを強く拒んでいた茂吉が実弟の説得によりやく応じ、生前唯一建立を認め自ら揮毫したものと

です。また、中央高原の歌碑「山の峰かたみに低くなりゆきて笹谷峠は其處にあるはや」（『霜』）は、1941（昭和16）年5月に竜山登山を楽しんだときに詠んだ1首です。竜山山頂にある木柱の記念碑が朽ち果てつつあるのを見た茂吉瀧山蔵王歌碑保存会が中心となって石碑として移し建てたものです。

今回のプロジェクトは、伊藤八右衛門（蔵王温泉）、平井康博（山形市）の両観光協会長が、地元をはじめ茂吉の偉業に思いを寄せる方々の熱意を受けて、蔵王の新たな観光の魅力を創造し、発信しようと準備を進めてきました。竜山登山の歌を中心に鳥兜山展望台、蔵王ロープウエー地蔵山頂駅や温泉街、蔵王の入り口の朱い大鳥居など11カ所に建立します。

併せてプロジェクトでは、平安末期の歌人西行のゆかりを背景にした大山桜の植樹事業を行います。西行は西蔵王を訪れた旅で「たぐいなき思ひいではの桜かな うすくれなみの花のにほひは」という歌を残しています。蔵王堂があり千本桜として有名な奈良県吉野山を目指し「西の吉野桜」に対し「東の蔵王桜」にしたいと夢は膨らみます。

現職に就任して4年目になります。観光業務に携わるのは初めてであり、就任当初は見るもの聞くものすべてが新鮮で刺激を受ける日々が続きました。山形花笠まつり、日本一の芋煮会フェスティバルといった本県を代表するビッグイベント、霞城観桜会や市内名所旧跡を散策する城下町やまがた探険隊の活動、七日町御殿堰水の町屋、旧木村邸といった街なか観光拠点の整備、山形芸妓文化の伝承等々、山形の観光を支えている方々の努力を実感しております。

観光は地方創生の切り札でもあります。山形市には「街なか」「蔵王」「山寺」と3つの観光エリア・観光協会があります。多くの方々の協力を得て、それぞれの観光資源を活かし結束して山形市の観光振興を図り、その活動を通して経済の活性化に寄与して参りたい、と思う次第です。



今月の表紙 「山形大学小白川キャンパス」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」（事務局・㈱大風印刷）提供。